図書館だより

第６号

２０１８年　１１月号

ノーベル賞を読む

最高の栄誉とも言われるノーベル賞。「物理学賞」、「化学賞」、「生理学・医学賞」等、ほぼ毎年のように日本人研究者が受賞していますね。

ではここで問題。

Q1）日本人ノーベル賞受賞者はいままでに何人？

Q2）その内「文学賞」受賞者は何人？

正解は、

1）24 人（日本出身者を含めると 27 人）

2）2 人（日本出身者を含めると 3 人）

「文学賞」の方は意外に少ないですね。

で、この 2 人とは、川端康成（『伊豆の踊子』『雪国』『眠れる美女』などが映画やドラマの原作にもなっている）と大江健三郎（映画原作の『飼育』『静かな生活』などや、『個人的な体験』『万延元年のフットボール』等がよく知られている）。書名くらいは聞いたことがある、という人も多いはずです。本校図書館にも 2 人の本はそれぞれ 50 冊前後入っていますよ。どれか 1 冊でも読んでみましょう。

そして前回の「文学賞」受賞者が、長崎生まれで英国籍のカズオ・イシグロ（石黒一雄）。本校図書館にある『わたしを離さないで』と、もう一つ最新作の『忘れられた巨人』をぜひ読んでいただきたい。人間の「記憶」が持つ意味について深く考えさせられます。

ミュージシャンがノーベル賞！

では、「もっととっつきやすい文学賞作品は？」と言う人には、前々回受賞者のミュージシャンボブ・ディランはいかが？「アメリカ音楽の伝統を継承しつつ、新たな詩的表現を生み出した功績」で、歌手としては初のノーベル文学賞を授与されました。彼の歌や歌詞を楽しむのも第一級の「文学体験」となるのです。図書館にもその歌詞を載せた本があります。

「次のノーベル文学賞」を読む

それでは、日本人作家で次にノーベル文学賞を受賞するのはだれでしょうか？

ずばり、最も期待されるのは村上春樹。本校図書館にもたくさん入っていますが、中でも特にお勧めなのが、『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』『海辺のカフカ』『1Q84』。今度こそノーベル賞！と期待しながら、あなたも世界が読んでいるハルキをぜひ楽しんでください。きっとわくわくしながら読めるはずです。